

第二章 北遣艦隊ノ樺太方面ニ

於ケル行動

第一節 南部樺太方面ニ於ケル行動

第一目 陸兵ノ輸送揚陸掩護

旗艦春日ニ乗シテ鎮海灣ニ在ル片岡第三艦隊司令長官ハ六月十九日聯合艦隊司令長官ヨリ第三艦隊第四艦隊(第一第十艇隊ヲ除ク)及ヒ第一驅逐隊(第一艦隊ヨリ臨時轉属セシメタル)ヲ率フ津輕海峡ヲ哨戒スルト共ニ獨立第十三師團ノ陸奥海灣以北ニ於ケル海上輸送ヲ指導シ且其ノ上陸ヲ掩護スヘキノ命ニ接セリ是ニ於テ同司令長官ハ二十日命令ヲ發シテ哨戒任務ヲ部署シ之ト同時ニ出羽第四艦隊司令長官ニハ對馬海峡警備ノ任務ヲ上村第二艦隊司令長官ニ引継キ便宜

大湊ニ回航シ同地ヲ根拠地トシテ第三艦隊(第五戰隊及第八重山ヲ除)第四艦隊(第一第十艇隊ヲ除ク)及ヒ第一驅逐隊ヲ率ヒ津
 輕海峽及ヒ千島水道ヲ哨戒スヘキコトヲ命シ東
 郷第三艦隊司令官ニハ第六戰隊(千代田ヲ除ク)特務艦熊野
 丸、同春日丸及ヒ第九、第十、第十五、第二十艇隊ヲ
 率ヒテ竹敷ヨリ大湊ニ到リ出羽司令長官ノ指揮
 下ニ入ルヘキコトヲ命シ又山田第三艦隊司令官
 ニハ八重山ヲ率ヒテ吳ニ赴キ旗艦ヲ日進ニ移シ
 同艦及ヒ八重山ヲ率ヒテ大湊ニ回航スヘキヲ命
 シ其ノ他関係諸官ニモ各訓令スル所アリ尋テ二
 十一日片岡司令長官ハ旗艦ヲ八雲ニ移シ爾後北
 海方面ニ出動スヘキ麾下艦隊ヲ北遣艦隊ト稱ス
 ル旨ヲ令シ翌日鎮海灣ヲ發シ二十八日大湊ニ入

廿七八年海軍史

二六

五

五

リ爾餘ノ艦艇モ亦相踵テ来會セリ
 此ノ時ニ當リ樺太派遣軍タル第十三師團第一
 上陸部隊ノ出師準備既ニ成リ北遣艦隊モ亦之カ
 輸送上陸ニ関スル諸般ノ掩護準備ヲ整ヘ陸海兩
 軍ハ今ヤ一令ノ下直ニ行動ヲ開始シ得ルニ至レ
 リ是ニ於テ七月二日第四艦隊司令官海軍少將中
 尾雄ハ旗艦臺南丸ニ乗シ第九戰隊及ニ第九第十
 一、（除ク）第十五（除ク）第二十艇隊並ニ特務艦熊野丸春日
 丸及ニ（海軍省）富士山丸ヲ率テ大湊ヲ先發シ片岡第三
 艦隊司令長官ハ四日午前九時第五戰隊（春日）第六
 戰隊第七戰隊（壹岐沖島見）第八戰隊通報艦八重山及
 ニ第一第五驅逐隊並ニ假裝巡洋艦八幡丸同滿州
 丸ヲ率テ十一隻ヨリ成ル第一次陸軍輸送船隊ヲ

嚮導護衛シテ大湊ヲ出發セリ是ノ日朝未薄霧アリ時ニ細雨ヲ伴フ午後二時平館ノ正東三海里ノ地照ヨリ豫定航路ニ就キ六日黎明佐世保ヨリ表レル春日ヲ合セ同日正午禮文島附近ニ到達セリ片岡司令長官ハ上陸^(地照)撰定並ニ掃海ノ為ノ出羽司令長官ヲシテ第七第八戰隊及ヒ第五驅逐隊ヲ率テ先發セシメ又當時禮文島船泊灣ニ在ル中尾司令官ヲシテ假裝巡洋艦^(臺南九八幡 九滿州丸)ヲ率テ谷海峡ノ西口外ヲ哨戒セシメ同司令官ノ指揮セル第九戰隊各艇隊並ニ特務艦ヲシテ出羽司令長官ノ麾下ニ轉属セシム是ニ於テ片岡司令長官ハ第五第六戰隊ヲ直率シテ輸送船隊護衛ノ任ニ當リ七日午前六時中知床岬^(自岬ハ戰時中海軍ニテ重藏岬ト稱シタルモナリ)ノ北北西

廿七八年海戦史

一三

七

五

頁

十五海軍ニ達シテ漂泊セリ

是ヨリ先キ出羽司令長官ハ七月六日正午第七、第

八戦隊以下ヲ率キテ本隊ト分レ目的地點ニ向ヒ

テ急航シ午後六時宗谷海峡ニ於テ中尾司令官ノ

指揮セル第九戦隊以下ヲ合セ七日午前六時豫定

上陸地點掃海面ノ南端ニ達シタルヲ以テ直ニ廣瀬第

五驅逐隊司令海軍中佐廣瀬順太郎ヲシテ掃海隊

(第五駆逐隊、第九、第十一、第十五、第二十艇隊)ヲ率キテ作業ヲ開始セシムルト

同時ニ第一驅逐隊ノ吹雪、春雨ヲシテ上陸地點ヲ

偵察セシメタルニ沿岸一ノ防備ヲ多ク監視兵ト忍

ハル、露兵三騎ノ倉皇コルサコフ(後々ヨルサコフト稱ス)方

面ニ遁走スルヲ認メタルノミ其ノ海岸ハ水深ク

シテ大船ノ碇泊ニ適シ端舟ノ著岸モ亦良好ナル

1671

ヲ偵知セリ又錨地ノ掃海ヲ命セラレタル廣瀬第
 五駆逐隊司令ハ第九戰隊及ヒ熊野九掩護ノ下ニ
 部下ヲ督シテ駿速掃海ニ著手セシカ強潮ナルニ
 拘ラス天候靜穩ナルヲ以テ作業大ニ進捗シ午前
 八時四十分ニハ上陸地點タルノレヤ村ヲ距ル五
 海里ノ地點ニ到達セリ是ニ於テ第七、第八戰隊ハ
 逐次掃海面ニ入り第六戰隊ハ輸送船隊ヲ嚮導シ
 テ之ニ踵キ第五戰隊ハ掃海面入口ニ達シ汽艇端
 舟ヲ下シテ陸兵ノ上陸ニ供シ次テ山田司令官ハ
 第五戰隊ノ日進春日ヲ率テ西能登呂岬（同岬ハ戰時中海軍ニテ近藤岬ト稱シタルニナリ）
 同戰隊ノ八雲吾妻ヲ率テ依然掃海面入口附近ニ
 在リテ間接掩護ニ任シ各戰隊ハ十一時相前後シ

十七日正午海軍

一五八

距離岸約二三鏈乃至三海里ノ位置ニ投錨セリ是
 ニ於テ第六、第七、第八、第九戦隊ノ兵員ヲ以テ組織
 セル聯合陸戦隊ハ橋立副長海軍中佐町田駒次郎
 指揮ノ下ニ直ニマレヤ村ニ上陸シ何等ノ抵抗ヲ
 クシテ其ノ東方海岸ヲ占領シ又掃海隊ハ益々作業
 ヲ續行シ午後二時三十分ニハ既ニ對馬埼(海軍ニ附シテ名
名ニシテ旧名ヲ)
ヅマ埼
ト称ス附近マテ前進セシニ突然コルサコノ南方高
 地砲臺ノ狙撃ヲ受ケタルヲ以テ掩護ノ任ニ當レ
 ル赤城ト共ニ應戦シツ、敵砲火ノ下ニ掃海ヲ強
 行シ陸軍ノ掩護射撃ニ必要ナル區域ヲ掃海セリ
 既ニシテ海面安全トナリ上陸地點モ亦占領セラ
 レタルヲ以テ第四艦隊司令官海軍少將武富邦鼎
 ハ各艦ノ汽艇端舟ヲ指揮シテ揚陸援助ニ着手シ

午後零時五十分ヨリ陸兵ノ上陸ヲ開始シ七時マ
 テニ其ノ第一次及ヒ第二次上陸部隊ノ揚陸ヲ結
 了セリ敵ハ衆寡敵スヘカラサルヲ覺リタルモノ
 ノ如ク自ラ砲臺燈臺及ヒポロアントマリ村其ノ
 他處々ノ建築物ヲ焚キテ逃走セリ
 出羽司令長官ハ我カ陸軍ノコルサコフ占領ニ策
 應センカ為メ七月八日午前三時和泉及ヒ第九戰
 隊(赤城ヲ除ク)並ニ第五驅逐隊ノ不知火夕霧ヲ既掃海面
 ノ西端ナル對馬埼附近ニ派遣セシニコルサコフ
 ハ砲火ヲ交ヘスシテ未明既ニ我カ軍ニ占領セラ
 レタルヲ報ニ接ス仍テ直ニ各戰隊ノ汽艇ヨリ成
 ル掃海隊ニ殘餘區域ノ掃海ヲ命ジ春日丸ヲシテ
 之ヲ掩護メンコト不知火夕霧ハ高ホ進シテ千歲灣

廿七八年海戦日記

一七九

海

軍

海軍ニテ附シタル名ニシテ旧名ヲソセリ海軍ト称ス

入リ午前六時四十五分ソロウイヨ
 フカ村ノ沖合ニ至リシ時偶該村ノ北方高地ニ敵
 兵ノ出沒スルヲ發見シテ之ヲ砲撃セシニ敵モ亦
 野砲ニ門ヲ以テ應戰セシカ幾モナク發砲ヲ止メ
 障地ヲ焚キテ退却セリ而シテ第三吹及ビ第四吹
 上陸部隊ハコルサコフノ占領後同地ヨリ揚陸ス
 ルノ豫定ナルヲ以テ武富司令官ハ八日早朝輸送
 船隊ヲシテ漸次其ノ錨地ヲ對馬崎附近ノ既掃海
 面ニ移サシメ吹テ上陸地點ヲホロアセントマリ村^ト
 ニ豫定シ正午ヨリ上陸ヲ開始セリ而シテコルサ
 コフ^ト地ノ掃海ハ是ノ日午後六時頃全ク終結セ
 シカ同泊地ノ棧橋ハ敵ニ燒棄セラレ市街モ亦殆
 ト灰燼ニ歸シタルヲ以テ依然ホロアセントマリニ

1675

上陸ヲ為シ十日午後六時海軍ノ援助ヲ要スハキ
 揚陸事業全ク終結セリ又西能登呂岬ノ占領ヲ命
 セラレタル東郷司令官ハ陸軍歩兵一小隊ヲ搭載
 セル須磨、千代田及ヒ第九艇隊ヲ率ヒテ十日午前
 三時コルサコフヲ發シ六時五十分西能登呂岬北
 方東海岸ノ掃海ヲ第九艇隊ニ命ジテ先發セシメ
 須磨、千代田ハ七時十五分同岬ノ東方ニ達シ數發
 ノ威嚇砲撃ヲ試ミタル後聯合陸戰隊ヲ上陸セシ
 メトキ一ノ抵抗ナクシテ燈臺ヲ占領シ午後七時
 頃コルサコフニ歸著セリ

第二目 揚陸掩護後ノ行動

北遣艦隊ハ一ノ死傷損害ナクシテ既ニ陸軍輸送
 上陸ノ援助ヲ了ヘ今ヤコルサコフ泊地ニ於ケル

測量掃海ノ殘務ト同地附近ノ警備ト敵情ニ慮シ
 隨時南部沿岸ヲ偵察スルコトノミトナリ全艦隊
 永ク該方面ニ留ルノ必要ナキニ至レリ仍テ片岡
 司令長官ハ七月十日山田司令官ニ命スルニ日進
 春日及ヒ第一驅逐隊ヲ率テセントウラガ
 ル湾、セントオリガ湾方面ノ偵察威嚇ヲ行フヘキ
 ヲ以テシ又出羽司令長官ニハ第四艦隊、第九艦隊
 及ヒ熊野丸、春日丸ヲ率テコルサコフニ留ルヘキ
 ヲ命シ第三艦隊ニハ函館回航ヲ命シ尚ホ兩艦隊
 ヲレテ不日更ニ開始スヘキ第十三師團第二次上
 陸部隊ノ護送準備ニ著手セシム是ニ於テ東郷司
 令官ハ十二日午前三時第六戰隊及ヒ八幡丸ヲ率
 テ片岡司令長官ハ四時八雲、吾妻、八重山及ヒ第五

1677

驅逐隊ヲ率テ何レモコルサコフヲ發シテ函館ニ
 向ヒシニ途中屢濃霧ニ遭ヒ八幡丸ハ翌日江差ト
 福山トノ中央ナル小砂子附近ノ暗礁ニ擱坐セリ
 片岡司令長官ハ霧深キヲ以テ僚艦ヲシテ之カ救
 助ニ當ラシムルノ危険ナルヲ思ヒ八幡丸ヲシテ
 津輕海峡方面ニ在ル香港丸等ノ濃遣ヲ具ノ筋ニ
 要求セシメ東郷司令官ニハ霧霽ルヲ待テ八幡
 丸救助ノ為ノ麾下ノ一艦ヲ濃遣スヘキヲ命シテ爾
 僚ノ諸艦ハ依然進航シ第六戰隊(秋津洲ヲ除ク)及ヒ八雲以
 下ハ十四日午前何レモ函館ニ入港シ八幡丸ハ香
 港丸秋津洲等ノ援助ヲ得テ離礁シ十七日函館ニ
 到着セリ

セントウラガミル湾方面ノ偵察威赫ヲ命セラ
 十七日海戦也

レタル山田司令官ハ日進春日及ヒ第一駆逐隊ヲ
 率テ七月十二日出発シ翌日午前八時迄ニ目的
 地沿岸ヲ望見シタルヲ以テ先ツ第一駆逐隊ヲシ
 テセントウラガ^(S)ル湾ヲ偵察セシノタルニ午
 後二時歸^航シテオレコバ^(S)角ノ西方一鏈半<sup>(其ノ後ノ
 偵察ニヨ</sup>
<sup>リ同角ノ北微西四分ノ
 三四一鏈ニテトツ確メタリ)</sup>ノ地點ニ巡洋艦「イヅム」ドノ破
 壊坐礁スルアリ到底使用ノ日途アラサルコト等
 ヲ報告セリ仍テ山田司令官ハ日進副長海軍中佐
 秀島成忠等ヲシテ第一駆逐隊掩護ノ下ニ再ヒ「イ
 ツム」ドノ損害状態ヲ檢察セシメタル後更ニ
 南下シテオリガ湾ニ向ヒ十四日第一駆逐隊ヲ分
 遣シ同湾ノ何等異状ナキヲ確メタルヲ以テ山田
 司令官ハ駆逐隊ヲシテ單獨函館ニ向ハシメ親ラ

日進春日ヲ率テ十五日午後三時十五分同港ニ
到着セリ

又第四艦隊以下ヲ率テコルサコフ方面ニ留リ

タル出羽司令長官ハ麾下ヲ統率シテコルサコフ

浦地ノ掃海警備等ニ任スルト共ニ第十三師^團第二

次上陸部隊ノ掩護準備ニ著手シ七月十日宇治艦

長海軍^少佐金子満喜ニ命シ第九戰隊諸艦ノ航海

長ト共ニコルサコフ附近特定區域ノ略測圖ヲ製

シ又同浦地附近ノ潮信淺瀬風土等ヲ調査セシメ

第十五艦^隊司令海軍中佐近藤常松ニハ第九第十

第十五第二十艦隊ヲ率テコルサコフ附近ノ未

掃海面ヲ掃海セシメ十一月第二十艦隊司令海軍

少佐久保素復ニハ我カ一帆船ノ狙撃ヲレタル

十七年八月廿九日

二三二二

海軍

軍

ソノニ岬方面ノ偵察ヲ命ゼリ仍テ同司令ハ第六十五號及ヒ第六十二號艇ヲ率テ十四日出発シ濃霧ニ妨ケラレ偵察ノ目的ヲ達セザリシモ諸情報ヲ齎シテ歸隊シ又同艇隊ノ第六十三號及ヒ第六十四號艇ハ春日丸艦長海軍中佐荒川規志ノ指揮下ニ同艦ト共ニナイガチ及ヒ海豹島方面ヲ巡航セリ十三日出羽司令長官ハ樺太南部占領軍司令官陸軍少将竹内正策ヨリ南部上陸部隊ハ十二日敵ノ主力ヲウラゲミロフカ(後ヲ豊原ト稱ス)ノ西方ナルガリウエ村ノ密林中ニ撃破シテ二百餘名ヲ虜ニシ殘餘ノ敵ハマウカ(後ヲ真岡ト稱ス)ニ退却中ナルコト又ノレマ村ノ東方チビサニ驛ニハ敵ノ義勇兵若干アリ我カ陸兵一小隊之ニ向ヘルコト等ノ通報ニ

接セリ仍テ同司令長官ハ鎮遠ニハマウカ方面ノ
 偵察威嚇ヲ命シ又第十一艇隊ヲチビサニ方面ニ
 派シテ陸軍ニ策應セシム十五日伊東軍令部長ヨ
 リ獨逸高船汽カシリ一號北知床岬同岬ハ戰時中海軍ニテ
丹岡岬ト稱シタルモノナリ附近
 近ニ難破シ乗員ノ一部ハチチノネノ附近ニ在ル
 ヲ以テ麾下艦船ヲ遣シ之ヲ救助スヘシトノ傳令
 ニ接シタルヲ以テ出羽司令長官ハ中尾司令官ニ
 向ヒ臺南丸ヲ率キテ北知床岬附近ニ到リカシリ
 一號ノ船員ヲ收容シ歸途海豹島ニ至リ該島附近
 ニ於ケル漁獵ノ禁止ヲ揭示傳達スヘキヲ命シ同
 司令官ハ即日出港シテ十七日午前十時頃チチメ
 利ヲ沖ニ投錨セシカ是ノ日天候險悪ニシテ端舟
 ヲ陸岸ニ派遣スルコト能ハス翌日モ亦濃霧陸岸

廿七八年海軍史

二五一三

ヲ鎖シ天候回復ノ望ナカリシヲ以テコルサコフ
 ニ歸港セリ然レトモ中尾司令官ハ再度ノ派遣ヲ
 命セラレニ二十一日朝チチノネフ沖ニ投錨シテ遂
 ニガレリ一號船員ノ一部ヲ收容シ更ニ同船ノ難
 破地點タルアラトコウスクニ向ヒ殘餘ノ人員(總
 四十名)並ニ手荷物ヲ收容シテ二十六日小樽ニ入港シ
 収容人員ヲ療疾ニ移セリ

第二節 北部樺太方面ニ於ケル行動

片岡北遣艦隊司令長官ハ七月上旬麾下艦隊ヲ率
 斗獨立第十三師團第一次上陸部隊ヲシテコルサ
 コフニ上陸セシメ陸海協力ノ結果樺太南部ノ占
 領確實トナリタルヲ以テ更ニ第二次上陸部隊ヲ

アレキサンドロフスキーニ護送シテ其ノ揚陸ニ
 助力シ以テ樺太北部占領ノ目的ヲ達成セシメ
 トセリ是ヲ以テ同日令長官ハ七月十二日第二次
 行動ニ関スル命令ヲ發シテ麾下各隊ノ任務ヲ部
 署シ自ラハ雲、吾妻、八重山及ヒ第五駆逐隊ヲ率
 ヲルサコフヲ發シテ十四日函館ニ入港シ翌十五
 日ヲ以テ第十三師團第二次輸送船隊ノ護送揚陸
 ニ関スル計畫ヲ規定シ陸軍運送船二十二隻ヲ分
 ケテ四船隊ト為シ詳ニ其ノ行動次第ヲ規定シ又
 ヲルサコフ方面ニ在ル出羽第四艦隊司令長官モ
 十四日命令ヲ發シテ麾下各隊(第四艦隊及ヒ臨時指揮下ニ在ル
 第九艇隊、特務艦隊、能登丸、春
 日丸、山口丸、方面
 山丸、宇品丸)ノ任務ヲ定メタリ此ノ間第十三師團第
 二次上陸部隊ノ出發準備成リ其ノ輸送船隊ハ十

十七日(在日)

二七一四

七日午前四時逐次青森ヲ發シ小樽ニ向ヘルヲ以テ東郷司令官ハ之ヲ間接掩護ノ為メ第六戰隊ヲ率キテ是ノ日午前六時函館ヲ發シ普通航路ノ外方適宜ノ位置ヲ哨戒シツ、小樽ニ向ヒ山田司令官モ亦日進、春日、吾妻及ヒ第一驅逐隊ヲ率キテ同一任務ニ當リ片岡司令長官ハ八雲、八重山及ヒ第五驅逐隊ヲ率キテ函館ヲ發シ何レモ十八日午後小樽ニ入港セリ

片岡北遣艦隊司令長官ハ關係諸隊(第五、第六戰隊、通報艦八重山、第一、第五驅逐隊)

(滿州丸)悉ク集合シタルヲ以テ行動開始ヲ令シ第

五第六戰隊以下ハ七月二十一日午前十一時同司令長官直率ノ下ニ豫定ノ陣形ヲ作り順次小樽ヲ發シ陸軍輸送船隊ヲ護衛シテ北進ノ途ニ就ケリ

1685

七日午前四時逐次青森ヲ發シ小樽ニ向ヘルヲ以テ東郷司令官ハ之カ間接掩護ノ為メ第六戰隊ヲ率テ是ノ日午前六時函館ヲ發シ普通航路ノ外方適宜ノ位置ヲ哨戒シツ、小樽ニ向ヒ山田司令官モ亦日進、春日、吾妻及ヒ第一驅逐隊ヲ率テ同一任務ニ當リ片岡司令長官ハ八雲、八重山及ヒ第五驅逐隊ヲ率テ函館ヲ發シ何レモ十八日午後小樽ニ入港セリ

北濱艦隊司令長官ハ關係諸隊(第五、第六戰隊、通報艦八重山、第一、第五驅逐隊)悉ク集合シタルヲ以テ行動開始ヲ令シ

五、第六戰隊以下ハ七月二十一日午前十一時司令長官直率ノ下ニ豫定ノ陣形ヲ作り順次小樽ヲ發シ陸軍輸送船隊ヲ護衛シテ北進ノ途ニ就ケリ

1685

是ノ日連日ノ濛霧四散シ海波亦平ニ大小四十二
 隻ノ艦船ハ二十餘海里ニ連リ蜿蜒トシテ長蛇ノ
 如ク先頭艦須磨ハ二十二日午前四時禮文島北端
 ヲ西二分ノ一北十一海里ニ見ルニ及ヒ針路ヲ北
 十四度東ニ変シ上陸地點ノ沖合ニ向ヒテ直航セ
 リ是ヨリ先キ出羽司令長官ノ率ナル先發隊ハ濃
 霧ヲ冒シテ二十日午前六時千歲灣ヲ發シ其ノ日
 稚内ニ假泊シ翌日午後一時談灣ヲ發シテ目的地
 點ニ向ヒシカ同司令長官ハ二十三日午前三時先
 ツ武富司令官ヲシテ橋立及ヒ第九艦隊ヲ率テ加
 ストリ川灣ノ偵察威嚇ヲ試ミシノ次テ春日丸及
 ヒ第十一、第十五艦隊ヲ命派シ第十五艦隊ヲシテ
 上陸地點ヲ撰定セシメ其ノ他ヲシテツノエノ前

面ニ出テ敵ヲ牽制セシメ有ラ爾餘ノ艦隊ヲ率キ
 テ升ユイク岬ノ南方ニ假泊セリ上陸地點撰定ノ
 任ニ當レル第十五艦隊ノアルコワ沖ニ近ツクヤ
 住民ハ載荷船及ヒ人家ヲ焚キテ逃走シ敵兵ヲシ
 キモノ五六騎海岸ニ現レシモ忽テ其ノ姿ヲ没シ
 タルヲ以テ同艦隊ハ詳ニ附近ノ地勢ヲ檢シ陸上
 ニハ固定防禦ナキモノ、如クナルコトアルコワ
 ハ樹木多クシテ平地ニ乏シキモ其ノ沿岸ハ端舟
 ノ著岸ニ適シ大船ヲ距岸四鏈ノ處マテ進ノ得ヘ
 キコト等ヲ確メ同村ノ北西二分ノ一北十海里ノ
 地點ニ浮標ヲ置キ掃海面ノ入口ヲ表示シテ午後
 四時歸隊セリ又春日丸第十一艦隊ハツエヲ偵
 察シ一敵ヲ見スレテ五時歸來シ武富司令官ノ率

中ル橋立及ヒ第九艇隊ハカストリ一湾ニ向ヒ艇
 隊ノ一部ハ湾内ニ進入シテ威嚇砲撃ヲ為セシモ
 陸上聞トシテ聲ヲク有力ナル兵アラサルヲ知り
 七時歸隊セリ片岡司令長官ノ直率セル第三艦隊
 ハ二十二日朝無線電信ニヨリ第四艦隊ト相距ル
 約百二海里ナルヲ知り爾後絶エス相互ノ聯絡
 ヲ保テ序列整然トシテ航進セシカ二十四日正子
 ニ至リ片岡司令長官ハ先ツ第五駆逐隊ヲ派遣シ
 テ出羽司令長官ノ指揮下ニ入ラシメ次テ第一駆
 逐隊ノ吹雪春雨ヲシテ再ヒカストリ一湾ノ偵察
 威嚇ヲ試ミタル後其ノ一艦ハ留リテ該湾ノ哨戒
 ニ任シ他ノ一艦ハ間宮海峡南口外ノ哨戒ニ任セ
 シノ又東郷司令官ヲシテ須磨千代田及ヒ第一駆

逐隊ノ有明霞ヲ率テイムペラトルスカヤ港ノ偵
 察威嚇並ニスチユカムビス岬(同岬ハ戰時中海軍ニテ
出羽岬ト稱シクルナリ)ノ望
 樓位置ノ撲定ヲ為サシノ和泉秋津洲ヲシテ揚陸
 ノ助力ニ要スル汽艇端舟ヲ橋立ニ送リタル後出
 テ、ヅズエ岬ノ南方ヨリ黒龍沿岸州(州)ニ至ル線上
 ヲ哨戒セシム既ニシテ第五戰隊ハ午前八時掃海
 面入口ニ達シテ假泊シ揚陸用ノ汽艇端舟ヲ卸シ
 山田司令官ハ日進春日ヲ率テアレキサンドロ
 ヲスキールノ西方約二十五海里附近ヲ哨戒シ香港
 九ハ他方面ヲ哨戒シ序岡司令官ハ八雲吾妻八
 童山ヲ率テ掃海ノ進捗ニ伴ヒ午後一時三十分既
 掃海面ニ入りアルコソ沖ニ投錨セリ
 出羽司令官ハ七月二十四日正子チユイク岬南

方ノ假泊地ヲ發シテ午前四時三十分アルコソ沖
 至リシカ海面薄霧アリ前日設置セル浮標ノ所
 在ヲ發見セサリシヲ以テ春日丸、宇品丸ヲシテ
 ルコソノ北西二分ノ一西八海里ニ碇泊シテ掃海
 ノ起點ヲラシメ近藤第十五艇隊司令ヲシテ特別
 掃海隊(第九、第十、第十五、^陸第二十艇隊及ヒ)ヲ率テ掃海ヲ
 開始セシメ第五驅逐隊ヲシテ上陸地點ニ進ミ沿
 岸ヲ徐航シツ、森林ヲ搜射セシメ次テ第九戰隊
 ノ諸艦ヲシテ掃海隊ニ續航シテ之ヲ掩護セシム
 而シテ各隊ハ陸上ニ向ヒ搜射ヲ試ミ敵ヲ發見ス
 ル事ニ直ニ之ヲ擊攘セシカ海上ニハ水雷ナカリ
 レヲ以テ掃海作業ノ進捗甚ク駿速ニシテ午後四
 時ニハジヨシキエール(同岬ハ戰時中海軍ニテ島
 岬ト稱シタルモノナリ)ニ至ル

十三日三時五十分
 三三一七

追ノ豫定區域ヲ掃海スルコトヲ得タリ是ニ於テ
 第七、第八戦隊ハ其ノ進捗ニ伴ヒ既掃海面ニ入り
 各嚮導艦ヲシテ順次輸送船ヲ案内セシメ午後一
 時頃ニハ盡ク上陸地點ノ前面一海里以内ニ投錨
 セリ又橋野副長橋野副長佐ノ指揮セル第七、第
 八、第九戦隊ノ特別陸戦隊ハ是ノ日午前八時五十
 五分上陸セシニ敵ハ已ニ退却シタルヲ以テ一ノ
 抵抗ナクシテ九時十五分アルコトニ於ケル揚陸
 地區ヲ占領シ次ニ北遣艦隊諸艦ノ汽艇瑞舟ハ武
 富司令官指揮ノ下ニ同三十分ヨリ陸兵ノ揚陸ヲ
 開始シタルヲ以テ陸戦隊ハ午後一時二十分占領
 地域ノ守備ヲ陸軍ニ譲リテ歸艦セリ又沿岸ヲ徐
 航セル第五驅逐隊ハ進シテアレキサンドロス

1692
1693

本
部
副
長

追ノ豫定區域ヲ掃海スルコトヲ得タリ是ニ於テ
 第七、第八戦隊ハ其ノ進捗ニ伴ヒ既掃海面ニ入り
 各嚮導艦ヲシテ順次輸送船ヲ案内セシメ午後一
 時頃ハ盡ク上陸地點ノ前面一海里以内ニ投錨
 立副長町田海軍中佐ヲ指揮セル第七、第
 八、第九戦隊ノ特別陸戦隊ハ是ノ日午前八時五十
 五分上陸セシニ敵ハ已ニ退却シタルヲ以テ一ノ
 抵抗ナクシテ九時十五分アルコトヲ以テ於ケル揚陸
 地區ヲ占領シ次ニ北遣艦隊諸艦ノ汽艇瑞舟ハ武
 富司令官指揮ノ下ニ同三十分ヨリ陸兵ノ揚陸ヲ
 開始シタルヲ以テ陸戦隊ハ午後一時二十分占領
 地域ノ守備ヲ陸軍ニ譲リテ歸艦セリ又沿岸ヲ徐
 航セル第五驅逐隊ハ進ンテアレキサンドロフス

1692
1693

判_レ附近ヲ偵察セシニ何等ノ固定防備ナカリシ
 ヲ以テ該地ニ在ル棧橋ノ占領困難ナラサルヲ認
 ヲ砲火ヲ以テ之ヲ守護セリ既ニシテ出羽司令長
 官ハ棧橋守備ノ為メ更ニ鳥渡赤城ヲ派遣シ陸軍
 モ亦一箇中隊ヲ出シテ棧橋ヨリ上陸セシカ附近
 ニ潜伏セル敵ハ屢之ヲ逆襲シ殊ニ政廳背面ヨリ
 機関砲ヲ發射シ陸兵ノ抗戰稍困難ナルモノ、如
 クナリシヲ以テ鳥渡赤城_城ハ棧橋附近ニ至リ第五
 驅逐隊トカヲ協セ之ヲ砲撃シテ棧橋ヲ守護シ又
 宇治ハ石炭積出用棧橋守護ノ為メニヨシニ赴キ
 直ニ防火隊ヲシテ上陸セシメ陸軍派遣ノ小部隊
 ト共ニ_ニ燃焼中ナル棧橋及ヒ石炭ヲ消火シ摩耶ハ
 ムカガニ至リ陸戦隊ヲ派遣シテ同地ヲ占領シタ

十七日午五時

三五八

五

五

ル後其ノ守備ヲ陸軍ニ譲リテ歸還セリ
 敵ハ七月二十四日朝ヌミナヲ焚キ次テアルコソ
 放火セシカアレキサンドロフスキーニ於テハ
 我カ砲艦驅逐艦ノ砲撃急劇ナリシト陸軍ハ前進
 極メテ迅速ナリシカ為メ遂ニ兵燹ヲ免レ第二十
 六旅團長陸軍少將内藤新一郎ノ率ナル前進部隊
 ハアレキサンドロフスキーニ向ヒ戦闘少時ノ後
 敵ヲ撃退シ午後七時十五分全ク之ヲ占領セリ武
 富司令官ノ指揮セル揚陸援助作業ハ極メテ迅速ニ
 進捗シ是ノ日午後九時ニハ第一次及ヒ第二次部
 隊ノ揚陸ヲ了ス又第九艇隊司令海軍少佐河瀬早
 治ノ指揮セル水雷艇隊及ヒ汽艇ハ殘餘ノ掃海ヲ
 行ヒ二十五日豫定區域全部ノ掃海ヲ結了スルニ

1695
1696

ル後其ノ守備ヲ陸軍ニ譲リテ歸還セリ
 敵ハ七月二十四日朝刈ミナヲ焚キ次テアルコソ
 放火セシカアレキサンドロフスキニ於テハ
 我カ砲艦駆逐艦ノ砲撃急劇ナリシト陸軍ノ前進
 極メテ迅速ナリシカ為メ遂ニ兵發ヲ免レ第二十
 六旅團長陸軍少將内藤新一郎ノ率ナル前進部隊
 ハアレキサンドロフスキニ向ヒ戦闘少時ノ後
 敵ヲ撃退シ午後七時十五分全ク之ヲ占領セリ武
 富司ノ率ナル揚陸援助作業ハ極メテ迅速ニ
 進捗シ午後九時ニハ第一次及ヒ第二次部
 隊ノ揚陸ヲ了ス又第九艇隊司令海軍少佐河瀬早
 治ノ指揮セル水雷艇隊及ヒ汽艇ハ殘餘ノ掃海ヲ
 行ヒ二十五日豫定區域全部ノ掃海ヲ結了スルニ

1695
1696

及ヒ運送船ノ多數ハ即日アレキサンドロフスキー
 沖ニ回航シ二十七日午後七時ニハ揚陸作業ノ援
 助任務ヲ全ク終了セリ
 是ヨリ先キカストリ一湾ノ偵察並ニ間宮海峡ノ
 哨戒ヲ命セラレタル藤本第一驅逐隊司令ハ吹雪
 春雨ヲ率テ七月二十四日午前七時二十五分本隊
 ト会レテカストリ一湾ニ向ヒ正午頃クレスタル
 カムア燈臺附近ニ達シ直ニ陸戰隊(指揮官海軍中
 尉八角三郎)ヲ燈
 臺ニ派遣セシニ監守員等ハ既ニ逃走シタルヲ以
 テ遺棄品數點ヲ押収シ且附近ヲ偵察シテ歸艦セ
 リ是ニ於テ藤本司令ハ吹雪春雨ヲ率テ深ク刈
 ストリ一湾ニ進入シ午後四時十分ハザルト島附
 近ニ至リシ時電信局附近ニ在ル野砲ハ突然發砲

十七日午後七時

三七元

シタルヲ以テ直ニ之ニ應戰シ須臾ニシテ敵ヲ沈
 黙セシメシカ我カ砲火ハ火災ヲ市街ニ生シ又火
 薬庫ノ如キモノ爆發シテ延焼全市ニ及ヘリ藤本
 司令ハ既ニ任務ヲ了ヘ二十五日艦隊所在地ニ歸
 著セシニ片岡司令長官ヨリ更ニ間宮海峽南部ノ
 偵察ト水底電線ノ切斷トヲ命セラレ吹雪ヲ率キ
 テ出奔シ途中春雨ヲ合シ二十六日徐航シツ、間
 宮海峽ヲ前進シ午後一時二十分ホゴビ沖ニ達シ
 直ニ電線破壊隊(指揮官海軍中尉小川正冬)等ヲ陸上ニ派遣セリ
 此ノ時陸上人家附近ニ人影ヲ認メタルヲ以テ威
 嚇射撃ヲ加ヘ前記部隊ハ二時上陸レ一部ハ直ニ
 水陸電線ノ接續點ヲ破壊シ他ハ尚未前進レテ電
 信局ニ突入レ通信機材ヲ解脫シテ歸艦セリ二十

七日藤本司令ハ春雨ヲ開宮海峡ノ南口ニ留メテ
 哨戒セシメ自ラ吹雪ヲ率テ歸途ニ就キホロニ
 川崎ニ至ルヤ再ニ電線破壊隊ヲ派遣シ該隊ハ電
 線ヲ切断シテ對岸ナル電信局ヲ占領シ更ニ海岸
 ニ埋設セル電線ヲ爆破切断シ歸艦セルヲ以テ直
 ニ出發シ午後五時アレキサンドロフスキーニ歸
 著セリ

又イムペラトルスカヤ方面ニ派遣セラレタル東
 郷第三艦隊司令官ハスタルカ湾イムペラトルス
 カヤ港間ノ諸錨地偵察ノ為メ七月二十四日午前
 九時第一驅逐隊ノ有明霰ヲシテ先發セシメ午後
 二時有ラ須磨千代田ヲ率キテアレキサンドロフ
 スキーヲ拔錨セリ既ニシテ須磨千代田ハ翌曉イ

ムパラトルスカヤ港口に到リシニ適有明霰ノ偵
 察ヲ了ヘテ出港スルニ會シ乃チ相共ニ港内北灣
 ニ入り午前九時陸戦銃隊一小隊（指揮官 砲術長海軍大尉 平岩元雄）ヲ
 レテ驅逐艦掩護ノ下ニ兵營附近ヲ偵察セシノ須
 磨、千代田ハ更ニ南灣ニ至リ他ノ陸戦銃隊一小隊（指揮官 千代田隊長海軍大尉 藤野次郎）ヲシテイムベラトルスカヤ河附近
 ヲ偵察セシノザルニ何レモ敵ヲ發見セス兵營ハ
 荒廢レテ欠レク空屋タルノ形跡アリ別ニ交通機
 関ノ存在スルモノナシ是ニ於テ須磨及ヒ霰ハ二
 十六日イムベラトルスカヤヲ發シテニコラヤ岬
 ニ至リ陸戦銃隊一小隊（指揮官 須磨隊長海軍大尉 石井祥吉）ヲ派遣シ
 テ附近ヲ偵察セシメシニ燈臺ハ完備スルモ他ニ
 何等ノ交通機關ナカリシヲ以テ先ツ霰ヲシテ

レキサンドロフスキーニ歸還セシノ須磨ハ單獨

スチエカムビス岬ニ至リ陸戦銃隊一小隊(指揮官須磨分隊長海軍)

中尉大湊(直太郎)及ヒ工兵部隊ヲ派遣シテ望樓建設地ヲ豫

定セシメ千代田及ヒ有明モ亦同月ヲテスカ湖沖

ニ至リ陸戦銃隊一小隊(指揮官千代田分隊長海軍大尉江副九郎)ヲ遣シ附

近ヲ視察セシムルト同時ニ千代田航海長海軍大

尉松岡静雄ヲシテルカノフスカゴ河口ヲ測量セ

シノタル後須磨ニ合シニ二十七日午前九時俱ニ本

隊泊地ニ歸著セリ

七月二十九日第三艦隊司令長官海軍中將片岡七

郎ニ丸ノ勅語ヲ賜フ

北遣艦隊ハ天候ノ障碍ヲ冒シテ陸軍ヲ護送シ

其上陸ヲ究フセリノヲ樺太占領ノ基礎ヲ成セ

廿七八日

1701
1702

レキサンドロフスキーニ歸還セシノ須磨ハ單獨

スチエカムビス岬ニ至リ陸戦銃隊一小隊(指揮官須磨分隊長海軍)

中尉大湊(直太郎)及ヒ工兵部隊派遣シテ望樓建設地ヲ豫

定セシメ千代田及ヒ有明モ亦同日ヲテスカ湖沖

ニ至リ陸戦銃隊一小隊(指揮官千代田分隊長江副九郎)ヲ遣シ附

近ヲ觀察セシムルト同時ニ千代田航海長海軍大

尉松岡静雄ヲシテルガノフスカゴ河口ヲ測量セ

シメタル後須磨ニ合シニ十七日午前十時俱ニ本

隊泊地ニ歸著セリ

七月二十九日第三艦隊司令長官海軍中將片岡七

郎ニ尤ノ勅語ヲ賜フ

北遣艦隊ハ天候ノ障碍ヲ冒シテ陸軍ヲ護送シ

其上陸ヲ究フセリノヲ樺太占領ノ基礎ヲ成セ

廿七八下

1701
1702

五月片岡第三艦隊司令長官ハ勅語ニ對シテ老ノ奉	動ヲ嘆高ス	迅速ナラシメタル北遣艦隊將卒ノ忠勇タル行	天候ノ障礙ヲ排シ陸軍ト策應シ樺太ノ占領ヲ	八月四日皇太子殿下ヨリ老ノ令旨ヲ賜フ	深ク御感賞アラセラル	皇后陛下ノ懿聞ニ達シ其將校下士卒ノ功勞ヲ	基礎ヲ開キタル趣	北遣艦隊ハ陸軍護送ノ任ヲ完クシ樺太占領ノ	下ノ令旨ヲ傳フ	三十一日皇后宮大夫子爵香川敬三ハ左ノ皇后陛	朕深ク之ヲ嘉尚ス	リ
------------------------	-------	----------------------	----------------------	--------------------	------------	----------------------	----------	----------------------	---------	-----------------------	----------	---

答文ヲ奉ル

北遣艦隊カ天候ノ障碍ヲ排シ樺太ニ對スル作
戦ノ目的ヲ達成スルヲ得タルハ一ニ

陛下ノ御稜威ト天佑トニ頼ルモノナリ然ルニ

時ニ優渥ナル

勅語ヲ賜ハル臣等
感激ノ至リ堪ヘス尚ホ益

奮勵戦隊ヲ全クセンコトヲ期ス臣等
誠恐誠惶

謹テ奉答ス

明治三十八年八月五日
北遣艦隊司令長官片岡七郎
六日皇后陛下ノ令旨ニ對シテ
奉答文ヲ奉ル

北遣艦隊カ樺太ニ於テ
作戦ノ成果ヲ収メ得

タルハ一ニ

天皇陛下ノ御稜威ニ因ル
然ルニ斯ク優渥ナル

令旨ヲ賜ハル誠ニ感激ノ至
ニ堪ヘス尚ホ益

廿七八年八月五日

片岡七郎

奮勵 令旨ニ副ヒ奉ラシコトヲ期ス

明治三十八年八月六日 北遣艦隊司令長官片岡七郎

又同日皇太子殿下ノ令旨ニ對シ左ノ奉答文ヲ奉ル

天皇陛下ノ御威徳ニ因リ北遣艦隊カ樺太ニ於ケル作戰ノ目的ヲ達成シ得タルニ對シ特ニ優渥ナル 令旨ヲ賜ハリ感激ノ至ニ堪ハス尚ホ愈々勇奮努力 令旨ニ副ヒ奉ラシコトヲ期ス

明治三十八年八月六日 北遣艦隊司令長官片岡七郎

夕井子

第三節 樺太占領後ニ於ケル北遣

艦隊ノ行動

第一目 行動ノ概要

北遣艦隊ハ樺太占領ノ目的ヲ有スル獨立第十三師團ノ南北上陸部隊ヲ掩護シテ其ノ目的地點ニ上陸セシメノ爾後協力ノ結果第十三師團ハ三旬ヲ出テスルテ殆ト樺太全島ヲ占領セリ是ニ於テ序岡北遣艦隊司令長官ハ麾下艦隊ヲ兩分シテ之ヲ南北ノ要地ニ配備シ以テ我カ重要地點及ヒ新占領地ヲ哨戒警備スルト共ニ敵ノ海上ヨリスル軍資輸入ヲ杜絶シ兼テカヲ教育訓練ニ注キ尙ホ完全ナル修理ヲ艦艇ニ加ヘント欲シ七月二十七日命令ヲ發シ同司令長官ハ親テ第三艦隊ヲ率テ千

廿七八年海軍

歳満ヲ根椽地トシ宗谷海峡及ヒ樺太ノ哨戒警備
 ニ任スルト同時ニ北遣艦隊全般ノ作戦ヲ統轄シ
 出羽第四艦隊司令長官ニハ第四艦隊ヲ率テ大湊
 ヲ根椽地トシ津輕海峡及ヒ北緯四十二度以北同
 四十五度以南ヲ哨戒スヘキヲ命シ又中尾第四艦
 隊司令官ニハ臺南九及ヒ香港九ヲ率テ樺太ノ
 周航及ヒ海豹島ノ調査並ニ海獸保護ノ方法ヲ講
 スヘキヲ命シ又別ニ山田第三艦隊司令官ニ訓令
 シ日進春日ノ將校ヲ撰抜シテアレキサンドロフ
 スキ一燈臺附近特定區域間ノ補測ヲ行ハシメ又
 曩ニ第四艦隊ニ臨時編入シタル第五駆逐隊第九
 艇隊及ヒ熊野九ヲシテ第三艦隊ニ復歸セシムル
 旨二十八日片岡司令長官ハ藤本第一驅逐隊司令

ニ向ヒ麾下ノ二艦ツ、ヲ間宮海峡南口ニ派遣シ
 テ警戒スヘキヲ命シ翌日廣瀬第五驅逐隊司令ニ
 ハ便宜其ノ二艦ヲ遣シツエ岬トスチユカムビス
 岬トノ間ヲ偵察スヘキヲ命セリ三十日片岡司令
 長官ハカストリ川湾及ヒ間宮海峡南口視察ノ為
 ノ八幡丸ニ乗シ第九艇隊ノ雁燕ヲ率テ該方面
 ニ向ヒ翌日アレキサンドロフスキーニ歸著セリ
 是ノ日午前十時片岡司令長官ハルイコフニ在ル
 原口第十三師團長ヨリ前日敵ノ軍使我カ前哨線
 ナルタラウシルイコフノ南
方約七里ニ來リ戦闘中止ヲ提議シタ
 ルヲ以テ我ハ之ニ回答スルニ無條件ノ降服ヲ為
 スヘキヲ以テ其ノ諾否ヲ本日午前十時マテニ
 第一ハムツダ敵主力ノ根拠地也
川ノ北方約二里ニ出スコトヲ命シタル

十七日 伊 海軍 日記

伊 海軍 日記

首ノ電報ヲ受テ尋テ午後二時ノ發電ガ以テ樺太
 島軍務知事魚樺太軍長官リヤブノフ中將以下將
 校約七十下士卒三千二百悉ク投降ストノ報ヲ得
 タリ

八月一日片岡司令長官ハ東郷第三艦隊司令官ヲ

シテ第六戰隊及ヒ第五驅逐隊ノ夕霧陽炎ヲ率テ

イムペラトルスカヤヨリ北緯四十六度ニ至ル迄

岸ヲ偵察セシノ
(該分遣隊ハ出港後幾モナク濃霧ニ遭ヒ洋上ニ彷徨スルユト三晝夜ニ及ビシカ濃霧依然トシテ霧レサルヲ以テ終ニ偵察ヲ断念シテ五日コルサコフニ歸港シ)

テ霧レサルヲ以テ終ニ偵察ヲ断念シテ五日コルサコフニ歸港シ)
第五驅逐隊ハ直ニ引還シテアレキサンドロフスキニ避泊セリ
 二月 伊

東軍令部長ヨリ麾下艦隊ノ一部ヲシテ占守島ヲ

經テ堪察加半島南部ノペトロパワウスク附近

及ヒコムマンドルスキ一列島ヲ偵察セシムハシ

トノ傳令ニ接シタルヲ以テ翌三日ハ雲吾妻ヲ率

斗テコルサコフニ向ヒ五日同地ニ入港スルヤ前
 記訓令ニ基キ直ニ東郷司令官ニ向ヒ須磨和泉及
 ヒ特務船一隻ヲ率テ占守島ヲ經テ堪察加半島南
 部沿岸ニ在ル敵兵所在地ニ威力偵察ヲ行ヒ
 マンドルスキー列島ニ赴キ海獸濫獲ノ弊ヲキヤ
 否ヤヲ視察シ又曩ニ軍事上ノ捕虜トナレル退役
 海軍大尉郡司成忠ヲ收容スルキコト等ヲ命シ中
 尾司令官ニハ樺太ノ東岸方若クハ北方航路ヨリス
 ル敵ノ軍資輸入ヲ杜絶センカ為メ臺南丸及ヒ香
 港丸ヲ率テ樺太ノ東北兩岸ヲ巡航シ高木東經
 百四十六度以西ノオコツク沿岸ヲモ偵察スルキ
 ヲ訓令セリ又是ノ日東郷聯合艦隊司令長官ヨリ
 戦利艦「ハヤシ」ヲ旅順口ヨリ曳航セシメシカ為

ノ便宜鎮遠ヲ佐世保ニ回航セシノ高木春日九モ
 竹敷ニ回航セシムヘキコト又戦利艦ハ一ウキク
 ハ聯合艦隊ヲシテ九月中旬マテニ之ヲ引揚ケシ
 ムルニ決シ海軍中佐茶山豊也ヲ引揚委員長ニ任
 命シタルヲ以テ為シ得ル限り之ニ助力ヲ其ノ一
 キコト等ノ訓令ヲ受ケ次テ六日伊集院軍令部次
 長ヨリ第十四師團ノ滿洲軍ニ増遣セラレタルコ
 ト北韓方面ニモ若干ノ兵員馬匹等ヲ第二艦隊掩
 護ノ下ニ輸送セララルヘキコト等ノ電報ニ接シ伊
 東軍令部長ヨリハ參謀總長元帥陸軍大將侯爵山
 縣有朋ノ規定セラル禱太露國罪囚處分法ノ通報ト
 共ニ罪囚ヲ本島外ノ露國沿岸ニ輸送スル際ハ原
 口第十三師團長等ノ協議ニ應スヘシトノ傳令ヲ

受々又是ノ日聯合艦隊司令長官ノ訓電ニ基キ戰
 利艦ヲホルトリコ回航護衛ノ為ノ出羽司令長官ニ
 命シ滿州丸ヲシテ其ノ任ニ當ラシム是ノ時ニ當
 リ機関砲數門ヲ有スル敵ノ敗兵約四百クナイチ
 ヲ湖ノ南東山谷ニ據ルアリ我カ陸軍ハ一部隊之
 ヲ攻撃中ナルヲ以テ七日片岡司令長官ハ村上吾
 妻艦長ヲシテ竹内第二十五旅團長ト協議シ陸兵
 及ヒ野砲等ヲ搭載シテ之ヲ向湖北岸ニ揚陸シ魚
 テ海釣島ヲ視察セシム越エテ九日約六百ノ敵敗
 兵マウカニ現レ暴行ヲ逞ワストノ急報ニ接シ序
 岡司令長官ハ八重山艦長海軍大臣西實親ニ之カ制壓ヲ命シ
 尚ホ我カ陸軍ノ一部隊ハナイブチ附近ナルオト
 カイ河ニ沿ヒ東海岸ニ出テ北進セル約二百ノ敵

廿七八年海戰史

五一二六

海

軍

1712
1713

受々又是ノ日聯合艦隊司令長官ノ訓電ニ基キ戰
 利艦ハホルターワ回航護衛ノ為メ出羽司令長官ニ
 命シ滿州九ヲシテ其ノ任ニ當ラシム是ノ時ニ當
 リ撥關砲數門ヲ有スル敵ノ敗兵約四百クナイチ
 ヲ湖ノ南東山谷ニ擾ルアリ我カ陸軍ノ一部隊之
 ヲ攻撃中ナルヲ以テ七日片岡司令長官ハ対上吾
 妻艦長ヲシテ竹内第二十五旅團長ト協議シ陸兵
 及ヒ野砲等ヲ搭載シテ之ヲ同湖北岸ニ揚陸シ魚
 テ海釣島ヲ視察セシム越エテ九日約六百ノ敵敗
 死シカカニ現レ暴行ヲ逞クストノ急報ニ接シ序
 新島ヲ以テ連綿山八重山艦長ニ之カ制壓ヲ命シ
 尚ホ我カ陸軍ノ一部隊ハナイガチ附近ナルオト
 カイ河ニ沿ヒ東海岸ニ出テ北進セル約二百ノ敵

廿七八年海戰史

五二六

每

軍

1712
1713

兵ニ對シ作動中ナルヲ以テ、陸軍大臣原田正作シテ
 之ト協カセシム十日皇太子殿下ヨリ北遣艦隊ニ
 差遣セラレタル東宮武官海軍大佐黒水公三郎ハ
 コルサコフニ著シ片岡司令長官ニ優渥ナル御沙
 汰ヲ傳ヘ又北遣艦隊傷病者ニ下賜セラレタル御
 菓子料ヲ手交シ黒水東宮武官ハ八日函館ニ於テ
 出羽司令長官ニ同様ノ御沙汰ヲ傳達セリ即チ
 左ノ如シ

北遣艦隊ハ樺太占領ノ征途ニ上リシ以來濃霧
 其ノ他天為ノ障礙ヲ排シテ陸兵ノ上岸ヲ掩護
 シ陸軍ト策應シ遂ニ敵ヲシテ計畫キ力窮リ降
 ヲ乞フニ至ラシノタルハ司令長官始メ將卒ノ
 堅忍忠烈ノ致ス所 皇太子殿下深ク御満悦ニ

1714
1715

兵ニ對シ作動越前守大連守田曉艦長ニ命シテ

之ト協カセシム十日皇太子殿下ヨリ北遣艦隊ニ

差遣セラレタル東宮武官海軍大佐黒水公三郎ハ

コルサコフニ著シ片岡司令長官ニ優渥ナル御沙

汰ヲ傳ヘ又北遣艦隊傷病者ニ下賜セラレタル御

菓子料ヲ手交シ黒水東宮武官ハ八日函館ニ於テ

モ出羽司令長官ニ同様ノ御沙汰ヲ傳達セリ即チ

左ノ如シ

北遣艦隊ハ樺太占領ノ征途ニ上リシ以來濃霧

共ノ他天為ノ障礙ヲ排シテ陸兵ノ上岸ヲ掩護

シ陸軍ト策應シ遂ニ敵ヲシテ計盡キ力窮リ降

ヲ乞フニ至ラシノタルハ司令長官始メ將卒ノ

堅忍忠烈ノ致ス所皇太子殿下深ク御満悦ニ

1714
1715

思召サル時下不順ノ氣候各自目重自慶以テ將
来ノ志望ヲ達セラレンコトヲ望マセ給フ

八月十一日驅逐艦阜月及ヒ曉ハ新ニ第四艦隊ニ

編入セラル十二日藤本第一驅逐隊司令ハ山田司

令官ノ命ニ依リ吹雪春雨及ヒ裝砲艇一隻ヲ率テ

黒龍江口附近ノ偵察及ヒ水路實檢ノ為ノアレキ

サンドロクススキヲ發シ十五日測量艦武藏ハ西

能登呂岬附近等ノ測量ヲ命セラレ(同艦ハ開戰當時ヨリ津輕海峽方面ノ警備

ニ任セシカ七月二十四日測量艦トシテ特務艦隊ニ編入セラレ八月十五日小樽ヨリ曉ハマ

シカ方面ニ於ケル陸軍揚陸ノ掩護ト西海岸ノ偵

察トヲ命セラレ十六日吾妻ハチラケベオソ岬(岬同

ハ戰時中海軍ニテ須磨岬ト稱シタルモノナリ望樓ノ間接掩護トヲシヨ口附近守

備ノ目的ヲ有スル陸兵一部ノ護送トシ命セラル

廿七八年海戦史

五三二七

海軍

二十日摩耶赤城(宇治、馬場)第四艦隊ヨリ除カレ
 ラ警備艦トナリ第一、第十、第十一、第二十艇隊モ亦
 同艦隊ヨリ除カレテ警備艇隊トナリ各所管鎮守
 府ノ警備ニ任スルコト、ナレリ又コルサコフ方面
 是任ノ露國民ニシテ歸國ヲ欲スルモノ約千五百
 名陸軍運送船江都丸及ヒ東洋丸ニ乗シ二十五日
 アレキサンドロフスキーニ到着スヘキヲ以テ片
 岡司令長官ハ是ノ日山田司令官ニ命シ前記兩船
 ニ在リ監督護衛ニ任セル陸軍將校ト謀リ軍艦若
 クハ驅逐艦ヲシテ之ヲカストリ川灣ニ護送シ其
 ノ上陸ヲ掩護セシムニ十三日西陸下ヨリ北遣艦
 隊ニ差遣セラレタル待從武官陸軍歩兵中佐白井
 二郎ハ八幡丸ニテアレキサンドロフスキーヨリ

1717

コルサコフニ著シ翌日片岡司令長官ハ左ノ優渥ナル御沙汰ヲ拜受シ尚ホ北遣艦隊傷病者ニ下賜セラレタル御菓子料ヲ拜受セリ

北遣艦隊ノ各將卒ハ曩々樺太軍ヲシテ同島ノ占領ヲ完ウセシノ其後引續キ同方面ニ在リテ諸種ノ任務ニ服セルノ勤勞ヲ深ク御満悦ニ被思召尚ホ樺太ニ於ケル風土氣候ハ大ニ異ナルモノアルニ依リ各自一層自愛勤勞センコトヲ望マセ給ヒ又戦地ニ於テ傷病ニ罹ルモノ其苦勞一層ナルヘク折角加療速ニ恢復ニ至ランコトヲ望マセラレ特ニ御菓子料ヲ賜ル

當時浦塩斯德方面ノ敵情ニ関シテハ聞ク所ナク黑龍江鄂州ノ港灣ニハ依然攻勢的海軍力存在セ

ルカ如シト雖モニコラエフスク附近ニハ砲艦ニ
 隻小形水雷艇七八隻ノ現存スルアリ且敵ハ中亞
 國船舶ヲ利用シ軍資ヲ樺太ノ東方及ヒ北方航路
 ヨリニコラエフスクニ輸入セントスルモノ、如
 シ是ヲ以テ片岡司令長官ハ北海ニ於ケル重要地
 點並ニ占領地ノ哨戒警備ニ任スルト共ニ敵ノ軍
 資輸入ニ對スル用兵ノ便ヲ圖リ兼テ教育訓練ニ
 資センカ為メ八月二十四日命令ヲ發シテ艦隊ハ
 配置ニ變更ヲ加ヘタリ即チ片岡司令長官ハ自ラ
 第五戰隊、香港丸、熊野丸並ニ第一、第五驅逐隊ヲ率
 テ宗谷海峡及ヒ樺太南部ノ警備ニ任スルト共ニ
 北遣艦隊全般ノ作戰ヲ統轄シ東郷司令官ニハ第
 六戰隊(香港丸ヲ除ク)及ヒ第九、第十五艇隊ヲ率テ函館ヲ

根拠地トシ(九月十八日ヨリ)津輕海峡及北緯四十二度

以北同四十五度以南ノ日本海ヲ哨戒スヘキヲ命

シ又出羽司令長官ヲシテ第四艦隊(鎮遠第十五艇隊及満州丸ヲ除ク)

ト第六驅逐隊ヲ率テアレキサンドロフスキート

根拠地トシ談方面ノ警備ニ任セシム翌二十五日

片岡司令長官ハ廣瀬第五驅逐隊司令ヲシテ二十

七日ヨリ當分ノ内順次麾下ノ一艦ヲ宗谷海峡ニ

出シ晝夜宗谷岬ト西能登呂岬トノ結合線ヲ哨戒

セシノ又二十六日八幡丸艦長海軍大佐川合昌吾

ニハ便宜禱太海灣ニ出動シニゴラエフスクヘノ

察航船ニ備フヘキコト第六驅逐隊司令海軍大佐久

保田考七ニハ潮曉及ヒ暮月ヲ率テアレキサン

ドロフスキート向ヒ其ノ途上ノカサン及ヒクス

廿七八年海戦記

五七二九

海軍

シナイ方面ニ於テ敵ノ敗兵ニ對シ作戰中ナル我
 カ陸軍部隊ニ適當ノ援助ヲ與フヘキコトヲ訓令
 セリ熊野丸ハ稚内、宗谷附近並ニ樺太方面視察ノ
 途ニ向ヘル伊集院軍令部次長、乘艦ニ指定セラ
 レ二十七日小樽ニ入り軍令部次長、一行ヲ乘セ
 コルサコフ^{高橋}拔錨シ二十八日出羽司令長官ノ旗
 艦松島ハ函館ヨリコルサコフニ入港シ白井侍從
 武官同艦ニ至レリ是ヨリ先キ臺南丸ハ樺太北部
 東岸ニ於テ英國帆船アンケオープ^號ヲ拿捕シ海
 軍大尉阿部恒雄等ヲシテ二十日コルサコフニ回航
 セシノタリシカ未夕到着セサルヲ以テ出羽司令
 長官ハ八重山ヲシテ海防島附近ニ出動シテ之ヲ
 搜索セシノ並テ密獵船ナキヤ否ヤヲ巡視セシム

1721
1722

シナイ方面ニ於テ敵ノ救兵ニ對シ作戰中ナル我
 カ陸軍部隊ニ適當ノ援助ヲ與フヘキコトヲ訓令
 セリ熊野丸ハ稚内、宗谷附近並ニ樺太方面視察ノ
 途ニ向ヘル伊集院軍令部次長ノ乘艦ニ指定セラ
 レニ（伊集院軍令部次長ノ乘艦ニ指定セラレニ）小樽ニ入り軍令部次長ノ一行ヲ乘セ
 コ（伊集院軍令部次長ノ乘艦ニ指定セラレニ）ニ（伊集院軍令部次長ノ乘艦ニ指定セラレニ）二十八日出羽司令長官ノ旗
 艦松島ハ函館ヨリコルサコフニ入港シ白井侍從
 武官同艦ニ至レリ是ヨリ先キ臺南丸ハ樺太北部
 東岸ニ於テ英國帆船アンケオーポ號ヲ拿捕シ海
 軍大尉阿部（阿部）シテ二十日コルサコフニ回航
 セシノタリシカ未夕到着セサルヲ以テ出羽司令
 長官ハ八重山ヲシテ海豹島附近ニ出動シテ之ヲ
 搜索セシノ並テ密獵船ナキヤ否ヤヲ巡視セシム

1721
1722

八重山ハ二十九日、ルサコフヲ發シ、多未加灣（戰時中海軍ニテハ之ヲ七郎灣ト稱ス）及ヒ海防島附近ヲ巡板セシカ終ニ「アンケオー」ヲ號及ヒ密偵船ニ會セシテ九月三日歸港シ「アンケオー」ヲ號ハ本七日對馬埼ノ南東約二海里ノ地點ニ坐礁セシカ其ノ日離礁シ翌日コルサコフニ入港セリ）二十九

日出羽司令長官ハ松島橋立及ヒ沖島ヲ率キアレキサンドロフスキーニ向ヒテコルサコフヲ出發セリ

九月一日片岡司令長官ハ稚内、聲問、野寒南方泊地並ニ西能登呂岬等視察ノ為メ八重山ニ乘レテコルサコフヲ發シ前記諸方面ノ視察ヲ了ヘテ三日歸港シ直ニ八雲ニ移乘セリ三日山田司令官ハ哨戒警備ノ任務ヲ出羽司令長官ニ引継キ日進、春日及ヒ第一驅逐隊ノ春兩霞ヲ率キアレキサンドロフスキーヲ發シ翌日コルサコフニ入港シ又是ヨリ先キ第六驅逐隊ニ編入セラレ第四艦隊所屬

十七日 片岡司令官

五九三〇

トナリタル驅逐艦神風及ヒ初霜モ是ノ日横須賀ヨリ回港ニ来著セリ五日片岡司令長官ハ廣瀬第五驅逐隊司令ニ向ヒ宗谷海峡ノ哨戒ハ六日ヲ以テ一時撤去スヘキヲ命シ又熊野九艦長海軍大佐池中小次郎ニハ軍令部次長ヲ兼セ其ノ指示ニ從ヒ樺太島東岸海豹島附近ヲ巡視スヘキコト藤本第一驅逐隊司令ニハ吹雪霞ヲ率キ熊野九ト俱ニ軍令部次長ノ指示ヲ受ケテ行動シ有明春兩ハ川山サコフニ留ムヘキコトハ八重山艦隊司令長官ニハ片岡司令長官ノ不在中八重山及ヒ有明春兩ヲ率キテコルサコフ方面ヲ警備スヘキコトヲ命シ七日午前十時自ラ第五戰隊(八重山、八幡、九ヲ除ク)及ヒ第五驅逐隊ヲ率キテ拔錨シ途上諸種ノ訓練ヲ

1724
1725

トナリタル驅逐艦神風及ヒ初霜モ是ノ日横須賀ヨリ回港ニ来著セリ五日片岡司令長官ハ廣瀬第五驅逐隊司令ニ向ヒ宗谷海峡ノ哨戒ハ六日ヲ以テ一時撤去スヘキヲ命シ又熊野九艦長海軍大佐池中小次郎ニハ軍令部次長ヲ兼セ其ノ指示ニ從ヒ樺太島ノ海岸附近ヲ巡視スヘキコト藤本第一驅逐隊ハ吹雪霞ヲ率テ熊野九ト俱ニ軍令部次長ノ指示ニ從ヒ行動シ有明春雨ハ川口サコフニ留ムヘキコトヲ重山艦長海軍佐西艦長ニハ片岡司令長官ノ不在中八重山及ヒ有明春雨兩ヲ率テテコルサコフ方面ヲ警備スヘキコトヲ命シ七日午前七時自ラ第五戰隊(八重山八幡丸ヲ除ク)及ヒ第五驅逐隊ヲ率キテ抜錨シ途上諸種ノ訓練ヲ

1724
1725

施行シ八日午後小樽ニ入港セリ是ノ日伊集院軍
 令部次長ヨリ日露兩國ノ講和全權委員ハ五日午
 後議和條約ニ調印シ尚ホ同委員間ニ休戰條款ノ
 協定セラレタルコト東郷聯合艦隊司令長官ハ休
 戰地域ノ劃定ヲ命セラレタルコト等ノ電報ニ接
 シ又伊東軍令部長ヨリ北遣艦隊ノ指揮ヲ出羽第
 四艦隊司令長官ニ委ネ急速上京スヘキ旨ノ命ヲ
 傳ヘラル是ニ於テ片岡司令長官ハ指揮ヲ出羽司
 令長官ニ委ネ九月諸指揮官ニ教育訓練ヲ勵行ス
 ヘキヲ訓示シ陸路上京ノ途ニ就ケリ
 是ヨリ先キ北遣艦隊ノ艦船ニシテ修理ノ必要ナ
 ルモノハ指定ノ軍港ニ回航シテ順次修理ニ著手
 セシカ九月十日武富司令官ハ橋立修理ノ為メ之

廿七八年九月十日

六一三一

陸

五

ヲ率テ横須賀ニ向テ出發シ神風初霜ハ前日横須賀ヨリアレキサンドロフスキーニ入港シテ第六驅逐隊ニ合シ十一月山田司令官ハ訓練ノ為メ日進春日及ヒ第五驅逐隊(叢雲ヲ除ク)ヲ率テ小樽ヲ發シ翌日コルサコフニ入港シ十三日出羽司令長官ハ滿州丸及ヒ沖島ヲ率テアレキサンドロフスキーヲ發シカストリリ灣及ヒ其ノ附近ヲ視察シテ翌日歸港セリ又曩ニ上京セル片岡司令長官ハ十六日東京ヲ發シ翌日青森ニ著シテ直ニ八雲ニ乗艦シ即日アレキサンドロフスキーニ在ル出羽司令長官ニ具ノ安著ヲ報スルト共ニ不在中委任セル北遣艦隊ノ指揮ハ十八日午前八時之ヲ解クハキヲ以テシ尚ホ同司令長官ニコルサコフニ来

1227

會スヘキヲ訓電シ十八日青森ヲ發シテ二十日川
 ルサコフニ入港シ直ニ出羽司令長官、山田司令官
 及ヒ各艦長等ヲ旗艦ハ雲ニ召集シ外交ノ經過等
 ニ関シ訓示スル所アリ尋テ命令ヲ發シ彼我海軍
 休戰地域劃定委員ノ協定セル休戰地域ヲ告示シ
 尚ホ配備ノ一部ニ變更ヲ加ヘ片岡司令長官ハ第
 五戰隊(春日、八重山ヲ除ク)第六驅逐隊及ヒ曉ヲ率テコルサ
 コフヲ根椽地トシ出羽司令長官ハ滿州丸及ヒ
 南丸ヲ率テアレキサンドロフスキニ留リ中
 尾司令官ハ見島、沖島及ヒ鎮遠ヲ率テ小樽ニ東
 郷司令官ハ第六戰隊(千代田、和泉ヲ除ク)及ヒ第一驅逐隊ヲ率
 テ大湊ニ據リ各方面ノ警備ニ任スルト共ニ教育
 訓練ノ為ノ麾下艦船ヲシテ近海ヲ巡航セシムル

作中ノ片断

三三三

五

五

コト、セリ二十四日駆逐艦彌生ハ第三艦隊ニ編
 入セラレ二十六日中尾司令官ハ麾下ヲ率キテアレ
 キサンドロフスキー(二十九日小樽ニ入港シ又出羽司令官同日小樽ニ率キテアレキリ)ヲ發シ十月一日コルサコ
 川ニ入港セリ二日片岡司令官ハ出羽司令官長官ニ
 訓令スルニ第四艦隊ヲ率キ小樽ニ據リ當分該方
 面ノ警備ニ任シ又昂メテ教育訓練ヲ勵行スヘキ
 ヲ以テシ又東郷司令官ニハ麾下ニ編入シタ
 ル第六驅逐隊及ヒ曉到著セハ專ラ教育訓練ヲ勵
 行セシムヘキヲ訓令シ出羽司令官長官(滿州九及ヒ)ハ臺南九ヲ
 率キテ八日小樽ニ入港セリ既ニシテ片岡司令官
 官ハ伊東軍令部長ヨリ平和克復セハ聯合艦隊ヲ
 東京海灣ニ凱旋セシノ横濱沖ニ於テ觀艦式ヲ舉
 行セラルヘキコト日本海ニ通スル津輕宗谷兩海

1730

1729

コト、セリ二十四日駆逐艦彌生ハ第三艦隊ニ編
 入セラレ二十六日中尾司令官ハ麾下ヲ
 キサンドロフスキーヲ二十九日横濱ニ入港シ又出陣司令官同日横濱ヲ出陣シ十月一日
 川ニ入港セリ二日片岡司令長官ハ出陣
 訓令スルニ第四艦隊ヲ率テ小樽ニ據リ當分該方
 面ノ警備ニ任シ又勗メテ教育訓練ヲ勵行スヘキ
 ヲ以テシ
 ル第六駆逐隊及ヒ曉到着セハ專ラ教育訓練ヲ勵
 行セシムヘキヲ訓令シ出陣司令長官滿州九及ヒハ臺南九ヲ
 率テ八日小樽ニ入港セリ既ニシテ片岡司令長
 官ハ伊東軍令部長ヨリ平和克復セハ聯合艦隊ヲ
 東京海灣ニ凱旋セシメ横濱沖ニ於テ觀艦式ヲ舉
 行セラルヘキコト日本海ニ通スル津輕宗谷兩海

1730 1729

缺、監哨ニ任スル大汽力艦船ヲ除ケル麾下ノ北
遣艦隊ハ便宜東京海灣ニ凱旋セシメ横濱以外ノ
附近諸錨地ニ在リテ後命ヲ待タシムヘキコト等
ノ訓電ヲ受領セリ

講和條約既ニ締結セラレ休戰條款モ亦實施セラ

レ北遣艦隊ハ今ヤ東京海灣ニ凱旋スル命ヲ受

於テ片岡第三艦隊司令長官ハ十月九日命令ヲ發シハ幡丸

ヲ宗谷海峽方面ニ臺南丸ヲ津輕海峽方面ニ留メ

テ海峽監哨ノ任ニ當ラシメ爾餘ノ北遣艦隊ハ十

六月マテニ館山灣ニ集合スヘキヲ命シ片岡司令

長官ハ自ラハ雲吾妻及ヒ日進ヲ率テ十日午前六

時コルサコフヲ發シテ翌夜青森ニ入港シ出羽第

四艦隊司令長官モ亦滿州丸及ヒ第七戰隊ヲ率テ

廿七八年海峽

六五三三

五

一

1732

1731

北遣艦隊司令官

片岡司令官

十月九日命令ヲ發シハ幡丸

ノ訓電ヲ受領セリ

講和條約既ニ締結セ

レ北遣艦隊ハ今ヤ東京ニ

旋セントス是ニ

ノ訓電ヲ受領セリ

附近諸錨地ニ在リテ後命ヲ待タシムヘキコト等

遣艦隊ハ便宜東京海灣ニ凱旋セシメ横濱以外ノ

缺ノ監視ニ任スル大汽力艦船ヲ除ケル麾下ノ北

ヲ宗谷海峽方面ニ臺南丸ヲ津輕海峽方面ニ留メ

テ海峽監視ノ任ニ當ラシメ爾餘ノ北遣艦隊ハ十

六月マテニ館山灣ニ集合スヘキヲ命シ片岡司令

長官ハ自ラハ雲吾妻及ヒ日進ヲ率テ十日午前六

時コルサコフヲ發シテ翌夜青森ニ入港シ出羽第

四艦隊司令長官モ亦滿州丸及ヒ第七戰隊ヲ率テ

廿七八年海峽

六五三三

1732 1731

十一月午前十一時小樽ヲ出發セシカ途ニシテ聯
 合艦隊司令長官ヨリ旗艦ニテ便宜伊勢灣ニ集會
 スヘシトノ訓電ニ接シタルヲ以テ中尾司令官
 シテ第七戰隊ヲ率テ館山灣ニ赴カシメ自ラ滿州
 丸ヲ率テ伊勢灣ニ直航シ片岡司令長官モ亦聯
 合艦隊司令長官ヨリ第五戰隊ヲ率テ便宜伊勢
 灣ニ集會セヨトノ訓令ヲ受テ乃チ東郷司令官ニ
 訓令スルニ館山ニ至リ後命ヲ受テ其ノ地ニ集
 合スル北遣艦隊ヲ指揮スヘキヲ以テ十三日午
 前六時第五戰隊ヲ率テ青森ヲ發シテ命令地點ニ
 回航セリ又東郷司令官ハ十一日第六驅逐隊(加味ヲ)
 及ヒ第一驅逐隊ヲシテ先ツ青森ヲ發シテ館山灣ニ
 向ハシメ翌日午前八時第六戰隊ノ須磨、秋津洲及